



兵庫県におけるセイタカシギの初繁殖記録

三木敏史^{1,*}・守屋年史²

1. 日本野鳥の会会員 〒 671-1504 兵庫県揖保郡太子町黒岡 9-12

2. バードリサーチ 〒 183-0034 東京都府中市住吉町 1-29-9

はじめに

セイタカシギ *Himantopus himantopus* はチドリ目セイタカシギ科に属する鳥類で、汎世界的に分布し、アフリカ大陸中南部、ユーラシア大陸南部、インド、東南アジア、オーストラリア大陸、北アメリカ大陸南部、南アメリカ大陸にかけて不連続に繁殖分布する(中村・中村 1995)。日本では主に旅鳥として干潟、河口、水田、湖沼、湿地に渡来する(真木ら 2014)。全長は約 40cm、雌雄同色で長い赤い脚と細く鋭く尖った嘴、背から上面は光沢のある黒色で、他の部分は白い。兵庫県では内陸性の野鳥で海岸の干潟では殆ど観察されないが、全国では生息環境は海岸の浅瀬、干潟、ヨシ原、海岸近くの湿地・湖沼・水田などで、繁殖は湖沼、沼沢の浅瀬や海岸の岩石地などに営巣する。食性は動物質で水棲昆虫・甲殻類・貝類・小魚などの小動物である(中村・鮫島 2010)。

1975 年に日本で初めて愛知県で繁殖が確認され(中村・中村 1995)、その後、千葉県、東京都、愛知県、三重県、大阪府、鹿児島県、沖縄県(安藤 2008, 中村・鮫島 2010, 日本鳥学会 2012)にて繁殖記録が報告されている。

兵庫県では、1975 年 5 月に兵庫県姫路市大塩で初確認されて以降非常に稀な旅鳥だったが、1990 年代になると時々観察できる鳥となった(ひょうごの鳥 2010)。近年は 20 羽以上の渡来もあり、毎年の特に春には 1～2 羽又は 10 羽位の渡来が定期的に観察されるように 2021 年 12 月 12 日受理

キーワード：セイタカシギ, 兵庫県姫路市, 初繁殖記録,

*: torimiki@extra.ocn.ne.jp

なり、普通に観察される鳥となっている。数日から 1 週間程滞在して繁殖地に向かい、瀬戸内海側では、5 月下旬から 7 月(繁殖期)にかけて、セイタカシギを観察したことはない。また、周辺で巣立ったと考えられる幼羽の個体も観察されることがない(三木 未発表)。

本種は環境省発行の「レッドデータブック 2014 2 鳥類」(環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 2014)では絶滅危惧種Ⅱ類(VU)に指定されており、兵庫県版「レッドデータブック 2013」(兵庫県農政環境部環境創造局自然環境課 2013)には通常個体群 B・越冬個体群無・繁殖個体群無、と記載され、特記事項に繁殖の可能性がある」と記載されている。

今回、兵庫県下におけるセイタカシギの繁殖の確実な記録が得られたので報告する。

発見の経緯および方法

2020 年 4 月 28 日に兵庫県姫路市網干区大江島の井田守氏所有のレンコン畑に「セイタカシギが渡来している」との連絡が井田守氏からあった。当該のレンコン畑は、朝夕の通勤時にはかなりの車が通行する道路に隣接しており、道路の両側には水田・レンコン畑が点在している(図 1)。

観察地周辺は長時間の駐車は困難であり、人家も近くにあるため、周辺住民に了承を得て観察を行った。観察によるセイタカシギへのストレスをなるべく避けるため、車中から 8 倍の双



図1. セイタカシギの営巣環境
(2020年5月26日): 黒枠内
が営巣地.

Fig. 1. Nesting habitat of Black-winged Stilts (26 May 2020): Black circle indicates the nesting site.



図2. 繁殖したセイタカシギの番(手
前: オス) 観察開始時(2020
年5月7日撮影)、既に番とな
っていた.

Fig. 2. The breeding pair of Black-winged Stilts (7 May 2020): they were already paired when they arrived.

眼鏡と30倍の望遠鏡で観察し、主に600mmのレンズにデジタル一眼カメラで撮影記録を行った。

観察期間は2020年4月28日～2020年7月29日間の93日間継続して観察を行った。

結果と考察

セイタカシギの繁殖状況

観察当初からセイタカシギは番で行動しており、頭部の黒いオスと白いメスの番Aと両方と

も頭部が白い番B(図2)の2つの番が、別々のレンコン畑で採餌していたが、番Aは5月12日には当地からいなくなった。残った番Bが北側のレンコン畑で採餌し、そこに侵入してくるハシボソガラス、ハクセキレイ、スズメ、ムクドリに対し攻撃し追い出し行動を示していた。5月6日に初めて番Bの交尾を観察した。その後も番Bは一日数回、2.5～4時間位の間隔で交尾を行っていたが、5月14日の交尾を最後に以後行わなかった。同時期にオスは畦道



図3. 抱卵中のセイタカシギの営巣地（2020年5月26日）：黒枠内が営巣地。

Fig. 3. Nesting site of the Black-winged Stilt pair during incubation (26 May 2020): Black circle indicates the nest site.

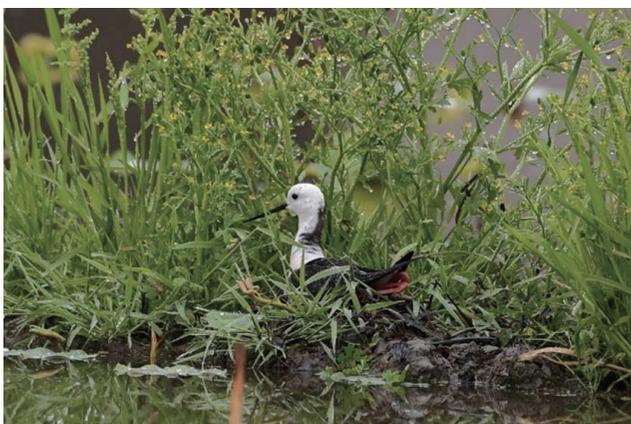


図4. オスによる抱卵の開始（2020年5月16日）。

Fig. 4. Start of male incubation (16 May 2020).

で巣穴を脚で掘り、水中から巣材（レンコンの茎など）を集めていた。メスは何度か巣に座るものの直ぐに立ち上がり離れるのを繰り返していた。最終的には巣が見えない草の生えた場所が巣場所として選択された（図3）。道路から巣までの距離は約30mあった。

5月16日、小雨が降る中、オスが抱卵を開始した（図4）。抱卵初期には、オスメスどちらが抱卵していた場合も、抱卵中の個体が巣から出て巣を空けたまま、番相手と一緒に採餌を

2～3分行ってから抱卵を交代していたが、徐々に巣を空けることなく交代をする様になった。親鳥が転卵する時に4個の卵を確認した。クラッチサイズは3～4卵で、4個が多い（中村・中村1995）ことから、平均的な産卵数であることが確認できた。

第1卵目の抱卵開始から22日後の6月6日7:05に、メスが卵殻を銜えて巣から出てきた。巣の内部が見えないため、殻を持ち出した時間を第1卵目の孵化とした。当日17:00頃に第



図 5. メスによる抱雛（2020年6月13日）：孵化後8日目。

Fig. 5. Chicks held by the female (13 June 2020): 8 days after hatching.



図 6. 幼羽に換羽し始めたヒナ（2020年6月29日）：孵化後24日目。

Fig. 6. Chicks starting to molt into juvenile plumage (29 June 2020): 24 days after hatching.

2卵目が孵化した。翌日の7日8:11に第3卵目が孵化し、10:04には4卵目が孵化した。抱卵期間である22日は、セイタカシギの抱卵期間は22～25日ぐらいでふ化すると報告(中村・中村1995)されている期間内であった。ヒナは早成性の離巢性(中村・中村1995)であり、第1卵の孵化後3時間36分でヒナが巢外に出てきた。

6月7日には2羽のヒナが水草の上で自ら採餌を行ない、6月8日には4羽のヒナがレンコ

ン畑の水草の上を歩いて採餌したところが観察された。このとき親鳥は監視をしているだけで、一切給餌を行わなかった。時々、ヒナは親鳥の背中に潜り込む様子もみられた(図5)。6月13日(孵化後8日)、営巣していたレンコン畑から南へ60m離れた水田とレンコン畑に移動した。この日、一羽のヒナが水路に落ちているのを見つけ保護した。体温が低下していたため保温を施して、親元に放すと直ぐにオスが抱雛した。6月14日の早朝には、水路にかかる橋



図 7. ケリに対するオスの追い出し行動 (2020年7月15日).

Fig. 7. Expelling behavior of the male towards a Grey-headed Lapwing *Vanellus cinereus* (15 July 2020).



図 8. オスの擬傷行動 (2020年6月14日).

Fig. 8. Injury feigning behavior of the male (14 June 2020).

を渡り、道幅 6 m の交通量の多い道路を渡り、営巣場所から約 250 m 離れた東側のレンコン畑や水田にさらに移動した。6月25日(孵化後20日)、ヒナの大きさに個体差が見られたが、採餌量や性別によるものかは不明だった。6月29日(孵化24後日)、ヒナの羽は順調に伸び初列風切羽・次列風切羽・初列雨覆・大雨覆など翼の構成が判別できる様になってきた(図6)。羽には幼羽の特徴である大雨覆の羽縁にある茶色が確認された。7月3日(孵化後28日)、

ヒナは風切羽もほぼ生え揃えたが、尾羽が未だ生えていなかった。ヒナは水田でメダカなどを捕食していた。この日上空にハヤブサが到来し、親鳥が警戒声を発すると、ヒナは地上に伏せた状態で動かなかった。7月4日(孵化後29日)、ヒナは1羽と3羽に分かれて行動しており、4羽揃って観察できるのは希になった。7月8日(孵化後33日)、ヒナの飛翔を確認した。採餌も活発に行いミズスマシやメダカ、チョウ目の幼虫等も捕食していた。7月16日位からオス

親がヒナに対して後ろから追いかけて追い出そうとする行動が観察された。7月19日（孵化後44日）、セイタカシギは6月14日～7月18日までは巣から250m離れた東側の水田とレンコン畑で採餌していたが、餌が少なくなったのか、他の水がある水田に移動することが多くなった。ヒナが飛翔出来ることで行動範囲も広くなり、営巣場所から540m離れた東南の水田や、650m離れた南西の水田にも移動するようになった。セイタカシギは比較的透けて見える水域を好み、他のシギ類が入れない水域で、くちばしを水面に平行に振って、双翅類の幼虫や小魚を採餌する（中村・中村1995）とある。水域でないと採餌できない本種は、もともといた水田で中干のため水が抜かれ始めたため、水田での採餌が困難となり餌を求めて移動したと考えられる。

7月22日朝以降、3羽しかヒナが確認できず、1羽が事故もしくは捕食にあった可能性がある。

7月26日には近隣の水田の水抜きが完了し、観察地周辺でセイタカシギの採餌環境がなくなった。7月28日17:40に5羽のセイタカシギ親子を観たのが終認となり、以降、観察地周辺ではセイタカシギは観察されなかった。

外敵に対する親鳥の警戒行動の観察

抱卵期からヒナが飛べるようになる孵化後35日頃までは、近づいてくる鳥に対して追出し行動を盛んに行っていた（図7）が、ヒナが飛べるようになると親鳥の警戒心は徐々に薄れて、孵化後39日以降はほかの鳥を追い払うことはしなくなった。また、移動する時や近寄ってくる鳥がいるとき親鳥はヒナに対し警戒声を発するが、それらの鳥を攻撃はしなかった。

6月14日、ヒナからかなり離れている車が通行できる農道にいた筆者の近くまで、このつ

がいのオスが上空より鳴きながら飛翔してきたことがあった。著者から20m先の休耕田で羽根をバタつかせ、擬傷行動と思われる動作が一度だけ観察された（図8）。バタつかせるだけで、チドリ類の様にヒナのいる反対方向に誘導はしなかった。その後も家族はしばらくこの場所に落ち着いていたため、観察による影響はこのとき以外は小さかったと考えられた。また、セイタカシギはバンに対し威嚇を行なったが、バンは反応を示さず、バンの横に降りて羽をバタつかせる擬傷行動のような行動も観察した。

今後の課題

レンコン農家の高齢化により放置されているレンコン畑では、6月下旬になると葉が過剰に茂ってセイタカシギは採餌ができなくなったようだった。しかし、6月下旬以降も周辺に点在する大小の水田が採食地として機能していた。これらの水田で採餌が出来たことがこの繁殖が成功した要因の一つと考えられる。しかし、7月中旬にイネの根を大きくするために水田を干すため、セイタカシギは餌場を求めてさらに移動したようだった。もし、一部の水田だけでも水を残すことができれば、事故や捕食者に狙われる等の危険を伴う移動を避け、しばらくはこの場所に留まっていたと考えられる。少しでも危険を伴う移動を回避するには、一般的な稲作の農法である水田の中干し期間中だけでも、田植えをしていない水田の湛水や、「なつみずたんぼ」と呼ばれる夏季農閑期の耕作地に湛水（斉藤2016）を行ってビオトープとして利用できるよう確保する必要性が考えられる。

謝辞

今回の観察でレンコン農家の井田守氏には全面的な協力をさせていただきありがとうございました。他の農家の方たちの理解も得られ、何のトラブルもな

くセイタカシギたちは無事に巣立つことができました。感謝申し上げます。

引用文献

- 安藤宣朗. 2008. 三重県で観察されたセイタカシギの繁殖記録. *しろちどり* (59): 3-7.
- 兵庫県農政環境部環境創造局自然環境課. 2013. 兵庫の貴重な自然 兵庫県版レッドデータブック2013(鳥類). 財団法人ひょうご環境創造協会.
- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室. 2014. レッドデータブック2014 2鳥類. 株式会社ぎょうせい.
- 中村登流・中村雅彦. 1995. 原色日本野鳥生態図鑑 (水鳥編). 保育社.
- 中村麻理子・鮫島正道. 2010. 沖永良部島におけるセイタカシギの繁殖生態. *Nature of Kagoshima* 36: 11-18.
- 日本鳥学会. 2012. 日本鳥類目録改訂版7版. 日本鳥学会, 三田.
- 齊藤光明. 2016. なつみずたんぼ 生物多様性の回復を目指すエコ農業の取り組み *グリーン・パワー* (452): 6-7. 森林文化協会.
- 日本野鳥の会ひょうご. 2013. ひょうごの鳥2010. 日本野鳥の会兵庫, 神戸.

The first breeding record of a pair of Black-winged Stilts in Hyogo Prefecture in 2020

Toshifumi Miki^{1*} & Toshifumi Moriya²

1. Wild Bird Society of Japan Kurooka 9-12, Taishi-cho, Ibo-gun, Hyogo pref. 671-1504, Japan
2. Japan Bird research Association Sumiyoshi-cho, 1-29-9, Fchu-city, Tokyo. 183-0034, Japan

We observed a pair of Black-winged Stilts *Himantopus himantopus* breeding from 28 April 2020 to 29 July 2020 in a lotus field at Oejima, Aboshi-ward, Himeji, Hyogo Prefecture, Japan. This is the first breeding record of Black-winged Stilt in Hyogo Prefecture with reliable data.

Keywords: Black-winged stilt, Himantopus himantopus, Hyogo Prefecture, first breeding record

*: torimiki@extra.ocn.ne.jp